

## 私の考える普及活動

鳥取農業改良普及所 遠藤 奈緒子

平成26年度から総合支援班の専任者となり特技をもたない自分の役割として、まずは特技班の普及員が現場に出られる時間が少しでも増えるようサポートすることだと思った。鳥取普及所に異動する前、私は農業振興課で新規就農関連の事業担当をしていたが、普及員が就農計画の作成支援等にかかなりの時間を要し、現場にでられず苦悩している姿を見てきた。そのため、計画作成で使用するファイル様式の改良や計画作成についても担当普及員と役割分担し、少しでも負担軽減となるよう努めた。



私の場合、業務のほとんどが新規就農対応であるが、やっつけていて特に重要と感じているのが、関係機関との連携である。新規就農者のスムーズな就農には、技術の習得以外にも住居や農地の確保、支援制度の活用等の対応が必要である。それぞれの関係機関がバラバラに対応してはスムーズな就農はできない。そのためにも日頃から情報共有を心がけている。関係機関との連携・調整をする役割は特に重要な業務だと考えている。

昨年、当管内に若手農業者のグループができた。立ち上げのときから支援しているが、人と人の繋がりがもたらす影響力のすごさを実感している。普及所にかぎらずJAや市も広域化した影響もあり、人と人との繋がりが希薄となり自分も含め担当者が地域の情報に疎いと感じることが少なくない。特にIターンの新規就農者の場合、地元に通じている関係者のサポートは欠かせない。地域で先導的な役割を担う農家と橋渡しをするなど、人と人を繋ぐ役割の重要性を感じている。

技術や知識の伝達だけでは解決できない課題が多くなり、先述にあったような関係機関や農業者同士の連携など普及員のコーディネートの役割がますます求められている。このコーディネート力を発揮するには、農業者や地域で何が問題となっているか、問題意識をもって農業者や関係機関と接していくことだと思う。そのため、できるだけ現場に出て農業者や関係機関と話をする時間を設け、普及所内での情報共有にこころがけるとともに、普及所内外問わずアンテナを高くしておくよう努めている。

普及活動はいうまでもなく農家との信頼関係が不可欠で、何か新しいことを提案しようと思っても自分を信頼してもらえないと何も進まない。農家の信頼を得るには、まずは得意分野を1つでも2つでも持つことだ。そして一番大切なのは相手の立場になって誠意を持って対応することだと思う。特技を持たない私の強みは何か。普及所に異動する前に新規就農関連の事業担当をしていたこともあり、関連する制度の知識はそれなりにあった。新規就農関連の事業は複雑で分かりにくい。就農希望者等にはできるだけわかりやすく説明をするようこころがけてきた。

どんな仕事でもモチベーションは大事だが、私が普及員として一番のモチベーションは農家から信頼され期待されることだ。一人でも二人でもそう思ってもらえるよう日々努力していきたい。